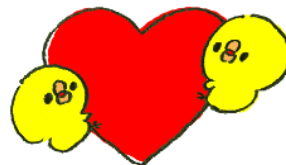


# 2016年度 尚絅学院大学

## ボランティア活動報告



2016年度も、多くの学生がさまざまな種類のボランティア活動に参加しました。ボランティア活動は、震災関連のボランティアや学習ボランティアなどたくさんあります。今回は、実際にボランティア活動に参加した学生の声をお届けします！！

### <仙台市ボランティアセンター主催 夏のボランティア体験会>

2日間、児童館でのボランティアに参加した学生の感想を紹介します。

約束をするとき、子どもが理解できるような分かりやすい説明をすることができなかった。落ち着きのない子どもへの関わり方が分からなかった。1日目でできなかったことの反省を通して、2日目には約束事は具体的で目で見ても分かる説明を心掛けた。幼児と接するときに意識している「目線を合わせること」は、年齢が違っていても大切なことだと知ることができた。小学生のあり余るほどの元気さに、驚きがありましたが、貴重な体験ができた。今後もボランティアに参加したい。

(子ども学科 2年)

### <名取市 小学校陸上競技大会 運営ボランティア>

子ども学科の6名の学生が、運営ボランティアとして参加しました。その中の2名の感想(抜粋)を紹介します。

私は午前中に男女の走り幅跳びの計測のボランティアに参加させていただきました。内容としては、競技に入る前の番号確認、整列等を最初に行い、計測後の場の整備等を行ないました。計測は、男子40名、女子40名の計80名で一人3回飛び、計測回数は240回でした。

同じく走り幅跳びの計測に当たった先生方はとても気さくで、私に「このボランティアは自分たちで探して参加したの?それとも先生に誘われて参加したの?」や「何かスポーツはやっていたの?」等と質問をしてきてくれたので、自分のことを話すことができ、早い段階で打ち解けることができたのではないかと感じました。

種目が始まった頃は、なかなか効率よく作業に取り組むことが出来ず、試行錯誤していましたが、2巡目以降はスムーズに行うことができました。

今回、陸上競技会のボランティアに参加することで、ボランティアという立場ではありますが、教員の方々と同じ動きをし、運営に回ることができ、とても貴重な体験をすることが出来ました。子どもたちが真摯に競技に挑んでいる姿を見ることが出来、大変感動しました。

(子ども学科 4年生)

とても実りあるボランティア活動となった。将来、教員を目指している身としては、現場の教員がどのような動きをして、子ども、保護者にどのような対応をしていくのかを拝見することができた。担当させていただいた選手招集では、大会運営に関わる大事な仕事だったため私自身とても緊張していたが、チーフの先生の優しく丁寧な指導があり、うまく立ち回り、役割を果たすことができた。仲間たちもそれぞれの役割を全うしている姿も見られたことから、ボランティアに参加した全員が何かを学ぶことができたのではないかと感じた。そして、陸上大会の運営を円滑に進めるための役割、名取市各学校の先生方のチームワークなどを拝見することができ、私にとってこの体験は大きな経験となり学びとなった。

(子ども学科 4年)

### <災害ボランティアシンポジウムに参加>

夏に発生した台風や熊本地震などの災害ボランティアをしている方の講演を聞き、災害ボランティアについての学びを深めました。ボランティア活動を行なうだけでなく、講演会やワークショップに参加する機会もあります。被災地支援のボランティア活動を続けた学生が講演会に参加した際の感想（抜粋）を紹介します。

講師の方々の話を聞いて、ボランティア活動は難しいと強く感じた。被災地の住民の皆さんが必要としている活動に関しては特に難しい。講演は、自分自身が参加した活動を振り返るきっかけともなった。

必要以上の活動、つまり被災地や住民さんへの必要以上の行動は「お困りボランティア」と呼ぶそうだ。ボランティア団体や「私達これできます！任せて！」という主張が強ければ、住民さんも担当の社会福祉協議会の方も困惑してしまう。活動の内容は家屋の片付けやイベントと様々だ。しかし、どのような場面においても、基盤は住民さんと現場の社協さんである。現地の皆さんと、会話に始まるコミュニケーションを重ねていく活動を忘れてはいけない。講演中に聞いた「その人（住民さん）あつての生活」という言葉が印象的だった。住民さんにとって何が大切かを考え、生活のありがいを少しでも後押しできると良いのかもしれない。

(表現文化学科 4年)

ここでは紹介しきれないほどに、多種多様なボランティア活動があります。「こんなボランティアに興味があるな、やってみたいな。」と思ったら、いつでもボランティアステーションまたは連携交流課窓口までお越しください！



文：子ども学科4年 沼田麻里  
(連携交流課 ワークスタディ学生)